



発行所 独立行政法人国立病院機構 西別府病院
 住 所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
 TEL 0977-24-1221 FAX 0977-26-1163
 ホームページアドレス <http://www.nbnh.jp/>
 印 刷 有限会社 中央印刷



鉄輪と桜

目 次

新年度を迎えて	2	第38回九州地区重症心身障害研究会	8
歯科のご紹介	3	ドナルドさんがやってきた～!!	10
平成27年度合同成人式を開催して	4	看護の日イベント「まちの保健室」開催について	11
日本医療マネジメント学会第16回大分県支部学術集会 ..	5	西別府近隣の美味しいお店紹介	11
第14回大分県神経難病地域支援ネットワーク研修会を開催して ..	6	職場紹介	12
「第13回 腎臓病教室～腎臓病を進めないために～」を開催して ..	7		

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
 5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利 1. 良質で安全な医療を受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
 3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利 5. カルテ開示を受ける権利
 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利

新年度を迎えて



院長
後藤 一也

病院周囲の桜が咲きほこる中で、44人の新採用、転入の方々を受け入れ新年度が始動しました。オリエンテーションや新人歓迎会は、個人的にも、これまで外から病院を見ていた方々の意見や印象、仕事に対する思いも知ることができた貴重な機会となりました。

翻って病院をとりまく状況をみますと、地域医療構想の策定や地域包括ケアシステムの構築など医療は大きな変革の時代を迎え、これに診療報酬改定や経費負担増などが重なり、風浪とうねりが絶え間なく押し寄せる状況に例えられます。病棟、外来棟、管理棟の老朽化も進み、立て直しは喫緊の課題ではありますが、現在の収支状況からその見通しは非常に厳しいものです。その中でも、病院理念や方針に則り、とりわけ医療の質や医療安全の確保に努めなければなりません。

以上のことを踏まえて、今年度の病院目標として以下の4つを掲げました。

1. 経営基盤の確立
 - ①入院患者数確保
 - ②経費節減
2. チーム医療の推進と医療の質の向上
3. 病院の情報発信機能の向上
4. 効率的・実効性のある会議運営

1と2は病院の基本方針と同じです。3と4はより具体的内容の目標となっています。

情報発信機能について、当院の診療内容や機能が地域住民や医療機関に十分認識されているとは言えない状況であることを感じております。目標達成の一助として、地域連携室の拡充、ホームページや広報誌の刷新を図ります。

会議については、限られた勤務時間において、多忙な業務をこなしながら時間が割かれ開催されており、そのあり方には今以上の改善が求められます。時間の節約に努める一方で、課題を共有し解決を図るためには十分な協議を通して成果の見える会議にしなければなりません。

職員一人一人が目の前にある業務に取り組み、職員一丸となって目標に向かえば必ず目標が達成できると信じます。

広報誌をご覧になる皆様にも、ご理解、ご支援とともに、忌憚のないご意見、ご指導のほど引き続きお願い申し上げます。





歯科のご紹介

歯科部長
保 科 早 苗

当科は、口腔ケアと歯石除去を中心に、義歯治療、ウ蝕治療、抜歯、粘膜疾患の処置等、…入院患者様の一般歯科を行っています。また、歯ぎしり防止装置など口腔装具の提供や、義歯治療と並行した口腔リハビリにも力を入れています。

スタッフは常勤の歯科医師と歯科衛生士各1名の他、非常勤スタッフ8名の計10名体制です。歯科医師は、歯科口腔外科医専門医2名をそれぞれ週1回招聘し、『摂食機能』の診査・診断を、日本老年歯科学会指導医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士である森崎重規先生に、また『歯科口腔外科』を、大分大学の河野辰行先生に診療して頂いています。それから、日本障害者歯科学会、日本経腸栄養学会の認定資格を持ついつも明るく元気ハツラツなベテラン歯科衛生士原徳美の指導の元、若手非常勤歯科衛生士の石本愛、工藤綾子両名は、リハビリを含めた『機能的口腔ケア』を行う他、診療補助、予防処置・衛生指導等もしています。歯科技工は、大分赤十字病院歯科口腔外科から口腔装具のエキスパート森島貴史、一般歯科からキャリア40年のベテラン秋吉ゆき子の両歯科技工士の診療援助を受け、破損した義歯の即日修理も可能な体制となりました。さらに、クラーク小澤真弓とアシスタント大石麻衣子の2名が、受付業務、消毒・滅菌等の診療サポートをしてくれています。

さて、日本歯科医師会大久保満男前会長は、歯科医療の役割を『食や会話という人間の生きる力の根幹を支える生活の医療』であるとしています。また、全身機能が低下した患者様にとって口腔ケアは、肺炎予防そして人間としての尊厳を保つために不可欠であることは周知のとおりです。

私達は、入院患者様の『歯と口腔』におけるスペシャルニーズの支援をミッションと考えています。今後も、歯科スタッフ一同はお口のサポーターとして日々研鑽し、ご家族そして様々な職種の医療関係者との連携を大切にしながら、患者様のお役に立っていきたいと思います。



平成27年度 合同成人式を開催して

療育指導室
保育士

矢 島 楽 美

平成 28 年 1 月 20 日、今年度も療育ホールにて合同成人式が開催されました。厳かな雰囲気の中、式は盛大にとり行われました。

今年度は東 1 病棟、東 3 病棟の利用者様各 1 名と、日中一時支援（ひだまり）の利用者様 1 名の計 3 名が、新たに大人の仲間入りをされました。参列者のあたたかい拍手に包まれ、スーツ、振袖、袴姿と三者三様の正装に身を包み、表情は三人とも凜とした面持ちでご家族と共に入場されました。

新成人者紹介は受持ち看護師、担当保育士より行いました。また、幼少時代からこれまで過ごされてきた数々の思い出の映像をまとめ、ご紹介させていただきました。スクリーンを見つめながら親子で思い出を語ったり、参列者の中には感慨深げにスクリーンを見つめたりする姿がありました。

新成人者代表挨拶では、「自覚を持って前向きに頑張っていきたい」と抱負を述べました。また、保護者代表挨拶では時折涙を拭われながら、これまでのご家族の歴史や、医療的ケアを必要とする在宅の方が、利用できる施設が整備されていない現状を話されました。

来賓として、別府市長（別府市社会福祉協議会会長）、大分市教育委員会教育長、大分県立別府支援学校石垣原校副校長、重症心身症児（者）親の会「わかば会」会長、日本筋ジストロフィー協会大分県支部支部長にもご臨席いただきました。祝辞を頂戴し、成人者やご家族は神妙な面持ちで聴かれていました。

今年度は新成人の中に人気グループ嵐のファンがいたこともあり、「Happiness」をお祝いの歌として選曲しました。軽快なリズムに乗せて、参列者が心を込めて歌う歌声は、きっと成人者とご家族の心に届いたことと思います。成人式は人生の大きな節目のひとつ

つであり、大人としての第一歩を踏み出すスタートラインです。これから幾多の困難や楽しいことが待っていると思われま。この成人式が心に残る式となるとともに、これからの困難を乗り越える糧となり、幸多い未来への希望のひとつとなることを願っています。

今年も多くの方々に支えられ、無事に成人式を終えることができました、ご多忙中にもかかわらず御臨席いただきました来賓の皆様、職員の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。そして、成人を迎えられた皆様、ご家族の皆様にあらためて心からお慶び申し上げます。この度は成人、おめでとうございました。



日本医療マネジメント学会 第16回大分県支部学術集会

医療安全管理係長
渡 邊 和 子

平成28年2月27日(土)日本医療マネジメント学会 第16回大分県支部学術集会が大分市明日香美容文化専門学校大ホールで開催されました。

テーマ「みんなで支えよう地域の医療・安全～愛の心・手～」に対して、当院から「重症心身障害児(者)病棟における患者誤認防止の取り組み」について口演発表しました。

一般的に患者確認の方法として、患者自身にフルネームや生年月日を名のってもらい患者の協力を得ることをルールとします。しかし、重度の障害を持つ重症心身障害児(者)は、患者の多くが言語の表出ができません。

今回、重症心身障害児(者)病棟で発生した与薬時の患者誤認と、医療安全病院間相互チェックで指摘を受けた長期入院患者の誤認防止に対して、医療安全対策の強化を目指しました。

患者誤認の背景には、患者は10年以上の長期入院であり、入退院が少なく、看護師にとってはほとんどが「知っている患者」であり、患者への慣れや・思い込みがあります。

そこで「確実に言う患者確認の方法」と「患者の協力を得る手段はないか」について、リスクマネジメント部会を中心に各部署・委員会が連携して対策に取り組みました。

内服と薬時は、処方箋・薬剤とベッドネームを看護師2名で指差し呼称、検査等で病棟を離れる場合はベッドネームを持参し、それをもとに技師等と看護師で指差し呼称としました。

患者の協力を得る手段として音声の表出ができる患者は、名前を呼び音声言語で表出をもらい、音声の表出が困難な患者は、意思表示を体の動きや表情などで確認することを共有しました。

今回、患者誤認防止について院内全体で取り組むことができ、また、患者の表情・反応を確認するために患者に目を向けることが多くなり、言語ではないコミュニケーションでも確認は成り立つことを認識しました。

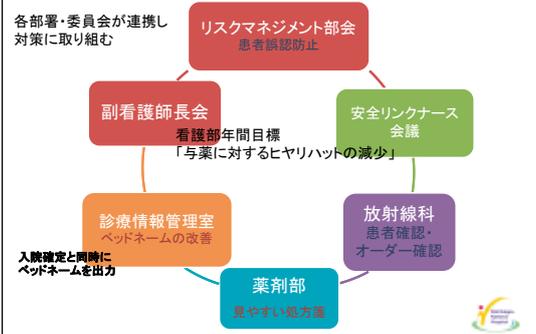
今後も、障害者が多く入院している当院の専門性を持った医療安全対策に取り組んでいきたいと思っております。

取り組みの背景

患者側	看護師側
<ul style="list-style-type: none"> ● 10年以上の長期入院である。 ● ことばによる意思表示が困難であり、笑顔や表情、発声、視線、身体の緊張などが応答行動となる。 ● 重心病棟でのリストバンド使用 <ul style="list-style-type: none"> ① リストバンドを長期に使用する。 ② 異食や四肢の変形・拘縮があり、装着の危険が予測される。 ③ 患者に装着せずにベッドネームにリストバンドを貼付している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 入退院の患者が少ない。 ● ほとんどの患者が「知っている患者」である。 ● 患者への慣れ・思い込み

現在のベッドネーム
バーコード認証は点滴実施時のみ

院内の取組



確実に言う患者確認の方法

内服薬と薬

処方箋・薬剤と、ベッドネームを看護師2名で指差し呼称

その後、与薬する看護師がGRを確認し与薬する。

部署での経験年数を考慮



点滴注射

- ・実施者は、「1患者1トレー」で指示された薬剤を揃える。
- ・確認者は、実施者が準備したトレーの中をGR確認する。
- ・実施者は、3点認証を行い点滴を実施する。

患者の協力を得る手段として

【音声の表出ができる患者】

名前を呼び、音声言語で表出してもらう。



【音声の表出が困難な患者】

イエスの意思表示を、身体の動きや視線、発声、表情で確認手段とする。
確認手段は、共有する。



第14回大分県神経難病 地域支援ネットワーク研修会 を開催して

東1病棟看護師長
林 田 あけみ

本研修会は、神経筋難病をはじめとする難病の医療とケアの向上を図ることを目的として、平成14年より開催され、今年で14回目を迎えました。

前半は特別講演として、「神経難病患者のコミュニケーション手段と支援」をテーマに、1月30日に別府市のビーコンプラザで開催しました。パナソニックエイジフリーライフテック株式会社、松尾光晴先生による「コミュニケーション機器、入力スイッチと導入のノウハウ」、徳器技研工業株式会社、徳永修一先生による「コミュニケーション機器導入のための支援制度と県内の事例について」の講演をしていただきました。徐々に意思伝達ができにくくなる患者さんに、機器の何をどのように駆使すれば患者さんの思いを伝える手段となるのか、またどのような制度のもと患者さんにコミュニケーション機器を届けることができるのか、医療者とは違う視点で根気よく患者さんと向き合い支援に直結する内容でした。

後半は、当院の神経内科医師中村先生より、神経難病患者の病態生理と非言語的コミュニケーション手段の導入時期、同じく当院の作業療法士野田さんより、コミュニケーションに関する介入の実際、訪問看護ステーション「夢」の訪問看護師土橋さんより事例紹介と各専門分野からの事例報告とディスカッションが行

われました。また、休憩時間を利用し、コミュニケーションツールの展示が行われ、研修参加者が実際の機器を手に取り、どのような患者さんを対象とし、どのように使用されるのか説明を受け、活発な意見交換が行われていました。

神経筋難病、特にALSの患者さんにおいては、意思を伝達する方法が徐々に狭まっていく中、医療者だけでなく、様々な方面からあきらめず根気よく、患者さん、そのご家族の気持ちを尊重し支援することが何より大切であると思います。

今回の研修では、看護師、保健師、介護支援員など多職種の方々に参加いただき盛況のもと研修会を終えることができました。今後も拠点病院として、地域医療機関、福祉機関とのネットワークにより患者さんの支援に努めたいと思います。



「第13回 腎臓病教室 ～腎臓病を進めないために～」 を開催して

栄養士
志岐歩美

去る2月12日（金）、当院カンファレンスルームにて腎臓病教室を行いました。本教室は腎疾患で治療中の方やそのご家族、学校検尿を取り扱う養護教諭などを対象とし、61名の方にご参加いただき、会場は大いに賑わいました。

今年は例年の講義に加え、原副院長より「腎臓を守ることは心臓を守ること」と題し、腎臓と心臓のつながりについて分かりやすくご講話いただきました。また、薬剤師より「腎機能低下時（CKD時）の薬物の減量について」と題し、日頃より内服している薬について詳しく説明され、参加者の興味を引き付けました。続いて、管理栄養士は「小児腎臓病の食事療法」と「CKDの食事管理について」の2本柱で講義を行いました。小児腎臓病の食事療法のポイントとして、①成長に見合った適正なエネルギー・たんぱく質を摂る、②減塩方法 について講義しました。小児腎臓病では成人の方とは違い、必要以上のたんぱく制限は成長の妨げになってしまいます。そこで年齢別の摂取目安量を示し、献立例として当院の治療食の写真を用い、何をどれだけ食べれば良いのかをわかりやすく説明しました。また味覚が確立される小児時期の減塩教育も大切であり、家庭でも薄味で美味しく食べられる調理の工夫や組み合わせ、食べ方についての説明と、外食や間食の選び方も講義に盛り込みました。最後に、食品や調味料の食塩含有量をクイズ形式で出題し、講義の復習ができていました。CKDの食事管理では、①たんぱく質制限、②十分なエネルギー補給、③K、P、水分の制限、について講義しました。今回はエネルギーアップに用いる、“油脂”に着目し、話題のココナッツオイルやエゴマ油、MCT（中鎖脂肪酸）について詳しく取り上げ、調理例も含めて効率よくエネルギー補給する工夫について説明しました。講義終了後に、炊き立ての低たんぱくごはんや麺、たんぱく質調整食品（カレーや中華丼、ゼリー等）の試食会を行い、な

ごやかな雰囲気の中、参加者は腎臓病について理解を深めていました。

今回の腎臓病教室で、食事療法の重要性を知っていただき、日ごろの食生活を見直すことにより、治療を行なう上での意識付けになれば幸いです。



小児腎臓病食



第38回 九州地区重症心身障害研究会

平成 28 年 3 月 5 日、佐賀市文化会館にて第 38 回九州地区重症心身障害研究会が開催されました。当院からも以下のとおり多くの演題登録がありましたが、そのうち3つの発表内容を今回ご紹介致します。

発表演題一覧

	演題名	発表者	共同研究者
1	当院重症心身障害児・者病棟における経管栄養剤の使用人数と投与方法の変遷 2006年～2015年の10年間の検討	植村篤実	後藤一也、平松美佐子、今井一秀、内山伸一、後藤千佳
2	3歳にて潰瘍性大腸炎を発症、寛解増悪を呈した超重症児例	内山伸一	後藤一也、今井一秀
3	大分県における支援学校在籍の在宅重症心身障害児の医療的ケアと在宅支援サービス利用の実態	能美禎夫	後藤一也
4	人工呼吸器装着児に対するポジショニングによる換気改善の試み	加藤浩章	内山伸一、阿部聖司、長瀬文代、亀井隆弘、河野泰之、手光文子
5	多職種と協力し呼吸状態の安定化に取り組んだ一事例	藤田優子	野田康平、石和梨沙、阿部聖司、和田将哉、合澤尚子、藤内麻美、亀井隆弘、河野泰之
6	重症心身障害者の親の後見制度に対する思い	氏原委子	能美禎夫、荻本みわ子、岡村浩城、甲斐美紀

人工呼吸器装着患児に対するポジショニングによる換気改善の試み

理学療法士 加藤 浩章

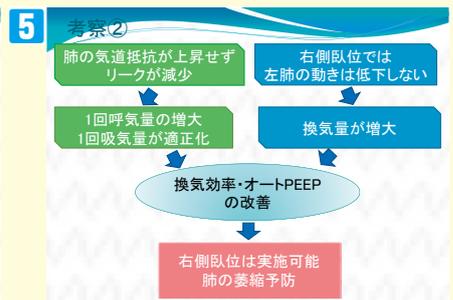
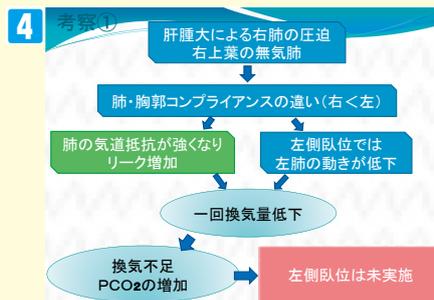
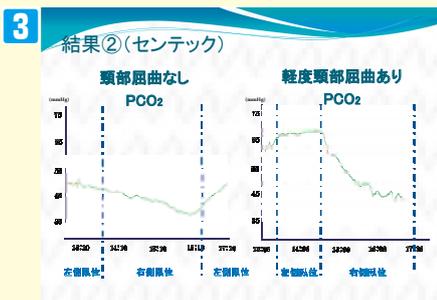
上気道からのリークが問題となる人工呼吸器装着患児に、その軽減を目的とし他職種と協力して呼吸の評価、ポジショニングの検討を行いました。結果リークの軽減は達成できたものの、二酸化炭素上昇という新たな問題点が出てきたことを研究会で報告しました。他職種と連携していくことで問題点を解決し、より良い医療の提供が患児に対してできたのではないかと考えます。今回協力していただいたすべての職員に感謝申し上げます。

1 活動経過 平成27年4月～7月まで

- 4月21日 リーク軽減を目的に呼吸チーム介入
- 5月21日 臨床工学技士(以下:CE)と理学療法士(以下:PT)でポジショニングの検討
- 6月 2日 医師(以下:Dr.) CE PTで今後の方針決定
- 6月 9日 呼吸状態の評価
Monnal T50、センテック使用
- 6月16日 Ns, CE PTで検討会
18日 Dr. 看護師(以下:Ns.) CE PTで検討会
- 6月29日 Dr. Ns, CE PTポジショニングの評価
Monnal T50、センテック使用

2 結果①(Monnal T50)

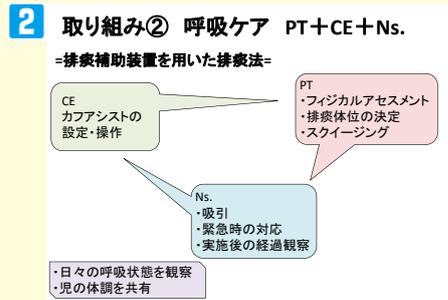
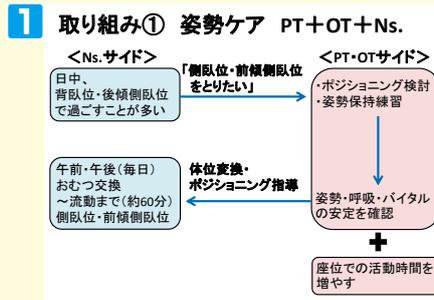
項目	頸部屈曲なし	目標値	軽度頸部屈曲あり
SpO ₂	98~99	94~100	94~100
脈拍	75~87	80~100	80~89
VTi	470~500	200~250	70~250
VTe	0	200	20~90



多職種と協力し呼吸状態の安定化に取り組んだ一事例

理学療法士 藤田 優子

研究会では、痰の貯留により呼吸器感染症を繰り返していた児に対して、多職種間で連携して排痰法を実施したことで呼吸状態が安定し、姿勢の多様化や活動範囲の拡大が図れた事例を報告させて頂きました。チームアプローチ成功の鍵は、児の状態を共有できたこと、有効な排痰体位が定着したことだと思っています。今後は、児の楽しみとなる活動を増やしていく予定です。ご協力頂いた職員の皆様、ありがとうございました。

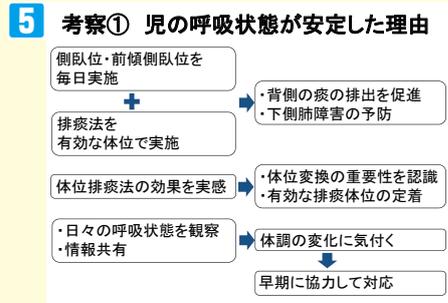


3 結果

- ①呼吸器感染症の罹患回数の減少
(2歳時:9回→3歳時:5回→4歳時:1回)
- ②活動範囲の拡大(屋内→屋外→院外へ)
療育参加率93%→96%
- ③座位の多様化(抱っこ、胡座、車椅子、端座位)
様々な座位が安定して長くとれるようになった!!
SpO₂:98%、P:90~100拍 週2回、40~60分

4 結果④ 環境の多様化

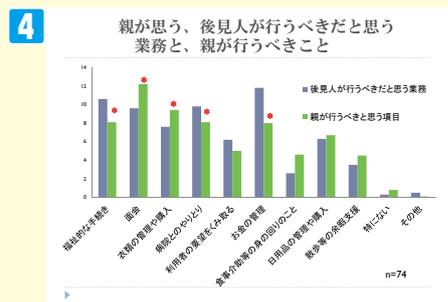
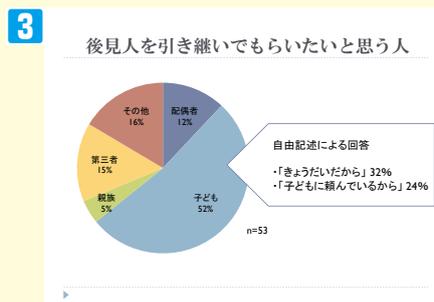
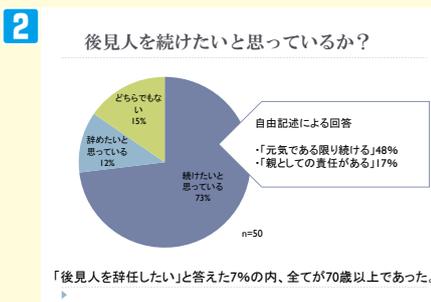
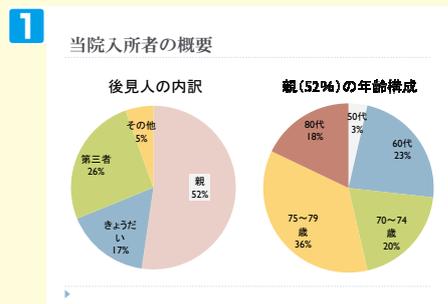
時間	～9時	9時～11時	11時～13時	13時～16時	16時～
活動		カフアシスト(週5回) 療育(月2回)		リハ(週5回) 療育(週2回)	
空間	ベッド	プレイルーム		ベッド	
姿勢	背臥位・後傾側臥位	前傾側臥位・側臥位(60分) ハギ(45分)	背臥位・後傾側臥位	前傾側臥位・側臥位(60分) 座位(30分)	背臥位・後傾側臥位
人員	Ns	Ns+PT+CE Ns+療育士	Ns	Ns+PT,OT,ST+CE Ns+療育士+PT	Ns



重症心身障害者の親の後見制度に対する思い

児童指導員 氏原 委子

①後見制度に対する親の思いを明確にする、②後見制度に関する支援の見通しを立てることを目的とし、アンケートを実施しました。その結果、親は家族で利用者を支えたいという思いが強く、元気である限り利用者を支えることが親の責任だと認識していることが分かりました。今後、親から後見人について相談があった際、複数後見のメリットを考える機会を設けることや、後見制度の勉強会を呼びかける等の支援が考えられます。





ドナルドさんが やってきた~!!

療育指導室

昨年に引き続き、ドナルド・マクドナルドさんが東病棟、中2病棟、ひだまりにお出でくださいました。ドナルドさんと訪問先の皆さんとの交流の様子を報告いたします。

【東1、2病棟】

今回は去年とは違いベッドサイドの方の所に来て頂きスマイルを届けてくれました。ある利用者様が「今回会えるということで凄く嬉しかったです!!」と笑顔でお話ししている姿や、マクドナルドさんを見て少し驚いた表情を見せる利用者様などとても印象的でした。皆さん一緒に「はい。チーズ!!」には、とても素晴らしい笑顔が見られとてもいいひと時でした。

【東3病棟】

10:30に病棟の自動ドアが開き、ドナルド・マクドナルドがやって来ました。入口付近で待ち構えていた利用者は満面の笑みで視線を向け、第1号の写真撮影を行いました。その後、利用者一人一人に折鶴のプレゼントを頂き元気いっぱいのパフォーマンスに全身で喜びを表現する方や、質問する方、驚いた表情を見せる方など、様々な表情で記念写真を撮り、日常とは違った楽しいひと時を過ごすことができました。

【東4病棟】

利用者さんがプレイルームに集まり、ドナルドさんとふれあいました。ふれあいタイムの内容は、ドナルドさんが企画してくれました。利用者さんや支援学校の先生と一緒にけん玉をしたり、看護師さんとドナルドさんがみんなにクイズを出すなど、楽しく時間を過ごしました。参加した利用者さん、家族、スタッフはとても喜んでいました。また各病室にも訪問して、一人ひとりと写真撮影もしました。

【日中一時支援「ひだまり」】

昨年に続き、ドナルド・マクドナルドさんが会いに来てくれました。訪問を聞いて、朝からどこかそわそわして、心待ちにしていた利用者さんでした。最初に

ドアから手と足だけを見せて、私たちの気持ちも更にわくわく。そして元気のよい声と共にドナルドさんの登場です。笑顔で迎えたり、驚いた表情で見つめたりと皆様々な様子でした。ひとりひとりがドナルドさんと握手して、最後は全員で「ドナルド~」のかけ声に合わせて写真を撮りました。

【中2病棟】

食堂には、ドナルドさんが来られる前から大勢の入院患者さんが集まり大騒ぎ状態でした。ご年配の方の中には、何事ごとですかとのぞいて行かれたり、握手を求める方もいらっしゃいました。ドナルドさんとの写真撮影はもとより、楽しいパフォーマンスもあり、あちこちで賑やかで楽しい声がたくさん聞かれました。



看護の日イベント 「まちの保健室」開催について

看護週間に合わせ西別府病院看護部主催のイベントとして「まちの保健室」を開催しております。昨年も170名余の来場者があり、地域の皆様に喜ばれ終了いたしました。

今年度も5月11日（水）10時～15時にゆめタウン別府催事場にて同イベントを開催いたします。「地域に寄り添う看護の心」をテーマとして、健康相談・栄養相談・身長体重測定・血圧測定・体脂肪測定・肺活量測定・血管年齢測定・パネル展示を行います。

スタッフ一同、沢山の方々のご来場をお待ちしております。

「まちの保健室」

5月11日(水)
10時～15時
ゆめタウン別府



西別府 近隣の 美味しいお店 紹介

事務部長 野口 利幸

前編

わが家

病院の近辺には数軒の居酒屋があります。その中でも特徴のある2軒を前編・後編に分けて紹介したいと思います。まず、病院から徒歩3分のお店「わが家」があります。

このお店は、昨年、退職された元車庫長の荒金さんから紹介されました。お店のメニューは豊富ですが、七輪を使った炭火焼きが一押しです。下味のついた肉や海鮮を自分で焼いて食べます。備長炭なのでとても香ばしく美味しいです。また、マスター手作りの餃子も秀逸な一品で

す。気さくなマスターと優しいママと二人で切り盛りしていて、とても明るい雰囲気のお店です。値段も手頃ですので、たまの息抜きに是非、暖簾をくぐってみては如何でしょうか。



職場紹介

放射線科 医療安全管理室

放射線科



放射線科は、1名の医師と3名の技師で日常業務をおこなっています。

技師の業務内容は、一般撮影・骨密度・歯科撮影（パノラマ）・CT・透視（DR）・MRIの検査です。

今年3月に更新された、MRI装置は、以前の装置よりも検査時間が短くて、BGMを聞きながら落ち着いた気持ちで検査を受けることができます。診断部門に大いに役立つことを念頭に、画像の向上を目指して取り組んでいます。

少人数のスタッフではありますが、お互い年齢（＝体力・健康）を気にしながら、協力し合って勤務にしている職場です。

医療安全管理室



医療安全管理室では、患者や職員の安全を守るため、組織横断的な活動を通して医療安全の推進に努力しています。

医療安全に関する情報の詳細な把握・迅速な対応などの日常活動に加え、27年11月から「医療安全ミーティング」を毎朝欠かさず行っています。医療安全管理室長、医療安全管理係長、医療機器管理補助者（CE）、契約係長をメンバーとして、ヒヤリハット報告等をもとに医療材料・医療機器不具合に対応しています。